

特集

明日に向かって

石川ひと

いしかわ・ひと 23歳 白石区栄通在住
通信系企業勤務・写真家
主に札幌市内の展示会に多く出展

写真を「描く」 新たなモノクロの世界

「斬新だ。こんな焼きつぶり方があるのか」。個展を開いていた彼女にそう声をかけたのが、著名なカメラ愛好家だった。多重露出を多用し、自在に焼き付け（プリント）する独特な作風に彼女自身が不安を覚えていただけに、この言葉は大きな支えになった。大学四年生のときである。幼いころから絵を描くのが好きだったという。特に版画やデッサン、色のない絵が彼女の目を引きつけた。カメラとの出会いも、白黒写真を初

めて見たのがきっかけ。現実離れた世界に見えたそうだが、しかし、白黒フィルムで撮っても、カメラ店の焼き付けでは思ったような仕上がりにならない。彼女は、大学に入ると「美術部」ではなく「写真部」に入部した。そこには、自分の思い通りに仕上げることでできる空間、すなわち「暗室」があったからである。「カラー写真は色という情報を人に押しつけてくる。時には感じ方まで。でも白黒は自分で想像しなくてはならない。人によって感じ方が変わるはず」と言う。モノクロの世界の可能性を最大限に引き出すために、鮮明で模範的な画像をあえて避け、まさに絵画で培ったセンスを生かして描いているのかもしれない。撮影は会社勤めが終わってからの夜や休みの日に限られているが、精力的に活動を続けている。同世代の写真家同士でグループを結成したり、展示会に出展したりするなど忙しい日々を送る。

最近、絵本に興味を持ち始めたという。「子供たちに見てもらえるような写真にも挑戦したい」。昨年暮れには、自宅に本格的な暗室も設けた。夢はさらに膨らみそうだ。

石川ひとさんの写真展を1月27日(月)〜2月7日(金)に区役所2階のフォトギャラリーで開催します(土日を除く)



『ここにいること
いないこと』



『見えることの
神秘見えない
ことの神秘』



▲大学時代に初めて出品した作品。この写真のように石川さん本人がモデルになる場合が多い

石川ひとさんの
ミニギャラリー



▲三脚に設置したカメラで撮影する。石川さんは自室か夜の野外で撮影することが多い

石川さんのホームページ <http://home.att.ne.jp/theta/hito/top.htm>